岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

文章〈A〉を参考に、俳句〈B〉の（　）に適切な言葉を入れましょう。

〈A〉蓑（みの）虫、いとあはれなり。鬼の生みたりければ、親に似て、これもおそろしき心あらむとて、親の、あやしき衣ひき着せて、「いま、秋風吹かむ折ぞ来むとする。待てよ」と言ひおきて逃げて去にけるもしらず、風の音を聞きしりて、八月ばかりになれば、「ちちよ、ちちよ」とはかなげに鳴く。いみじうあはれなり。　（枕草子　清少納言）

〈B〉蓑虫の（　　）と鳴きて母もなし　（高浜虚子）

豆知識 雑学コラム　面白い「むしのこえ♪」

コオロギやスズムシなどのいろいろな秋の虫が鳴く季節となりました。夏にはセミ、秋にはコオロギと日本には昔から虫の鳴き声で季節を感じる文化があり、いろいろな文学や音楽の作品に虫の鳴き声が出てきます。今回出題した蓑虫の鳴き声も秋の季語としていろいろな作品に出ています。では、蓑虫の鳴き声について掘り下げてみましょう。

まず、蓑虫はなぜ鳴いているのでしょうか。〈A〉の文章「枕草子」を要約すると、蓑虫はもともと鬼の子供で、親の鬼に蓑を着せられて、「秋風の時期になったら、戻ってくるから待っていなさい」と親の鬼は言っていなくなってしまった。秋風の吹く時期になると親の来ると思って「父よ、父よ」と鳴いているということでした。蓑虫は父親が来なくて寂しくて泣いているのですね。しかし、なぜ、「蓑虫」は鬼の子供という話ができたのでしょうか。角など鬼の特徴もないのに不思議ですよね。これは蓑虫の「蓑」に原因がありました。もともと「蓑」は稲を編んで作った雨具のことですが、昔から鬼が姿を隠すために身に着けるものでもありました。この鬼が姿を隠すために着ることから転じて、悪い実体を隠すための手段を表す「隠れ蓑」という言葉ができたと聞くと理解できるのではないでしょうか。蓑虫はこの鬼が着ている蓑に隠れているため、鬼の子供だと考えられたのですね。

ちなみに、蓑虫は蛾の幼虫で、蓑虫自体には声を出すための発声器官がなく、実際には鳴きません。一説によると、秋の時期に鳴くカネタタキという虫の「チッチッチッ」という鳴き声を、蓑虫の鳴き声だと勘違いしたという説があります。同じように、秋にミミズは「じいい」と鳴くと言われ、「みみずなく」が秋の季語になっていますが、これもミミズではなく同じく、土の中で暮らしているケラの鳴き声を聞き間違えたと言われています。童謡ではないですが、虫の声について学んでみると「あぁ、おもしろいむしのこえ♪」という発見があるものですね。

【解答】

（チチチ）チッ